

## つくば市記者会 御中

発信日：令和5年（2023年）7月31日（月）

発信元：つくば市 政策イノベーション部 科学技術戦略課

取材依頼 周知依頼 募集告知 その他

# 筑波大学と「つくばで輝く研究者」事業を開始しました



つくば市は、令和5年7月から筑波大学と、市内で活躍されている研究者を紹介する「つくばで輝く研究者」事業を開始しました。

本事業は、平成29年から次世代を担う学生等が進路選択をするに当たり、研究者という職業が選択肢の一つとなるよう、ロールモデルを発信するために開始しました。今年度から、つくば女性研究者支援協議会の事務局を担う筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局（BHE）との共同事業としてリニューアルし、つくばで働く研究者（特に女性研究者）の人となり、研究者を志したきっかけ、学生時代の話等を、学生等の興味関心を惹くよう、4コマ漫画と記事で構成し、市ホームページやSNSで、2カ月に1回のペースで配信を予定しています。

配信先一覧等については、別添資料をご確認ください。



News Release

市内で活躍されている研究者をご紹介します

つくば市と筑波大学は令和5年7月、市内で活躍されている研究者を4コマ漫画と記事で紹介する「つくばで輝く研究者」事業を開始しました。

本事業は2017年から、次世代を担う学生等が進路選択をするにあたり、研究者という職業が選択肢の一つとなるよう、ロールモデル発信する事業として開始しました。今年度から、つくば女性研究者支援協議会の事務局を担う筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局(BHE)との共同事業としてリニューアルし、地域の研究者(特に女性研究者)の人となり、研究者を志したきっかけ、学生時代の話等を、学生等の興味関心を惹くよう4コマ漫画+記事という形で構成し、HP及びSNSで発信するものです。

令和5年7月発行分を第1回とし、今後2か月に1回のペースで配信予定です。

【配信先一覧】

- 市公式HP

<https://www.city.tsukuba.lg.jp/soshikikarasagasu/seisakuinnovationbusm artcitysenryakuka/gyomuannai/2/2/1001875.html>



- 市公式 Instagram (つくばファンクラブ)

<https://www.instagram.com/tsukubafanclub/>



- 市公式 Twitter (@tsukubais)

<https://twitter.com/tsukubais>



- 筑波大学ジェンダー支援チーム Twitter (@UTsukuba\_gst)

[https://twitter.com/UTsukuba\\_gst](https://twitter.com/UTsukuba_gst)



<本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先>

茨城県つくば市

政策イノベーション部科学技術戦略課

電話：029-883-1111 (内線6278)

メール：sts00@city.tsukuba.lg.jp

筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局

ジェンダー支援チーム

電話：029-853-8503、メール：diversity@un.tsukuba.ac.jp

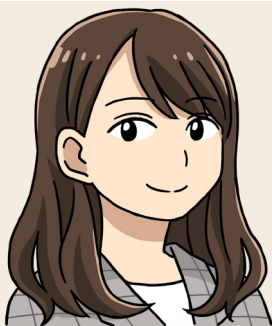


# 人の暮らしや命にかかわる仕事がしたい —— 失敗や遠回りの先にみえたこと

筑波大学医学医療系准教授、博士（保健学）  
大宮 朋子



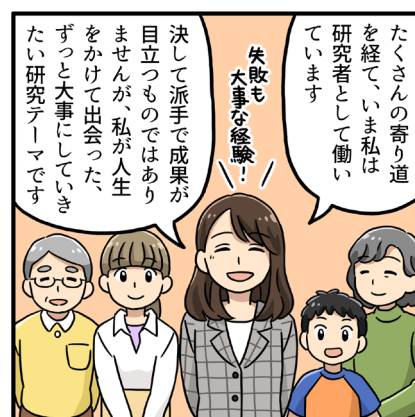
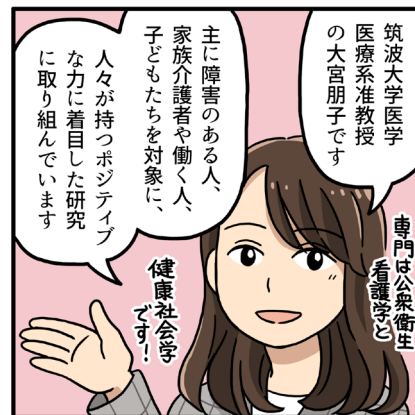
2023年7月



「**幼少期や学生時代はどんな子どもでしたか？**」  
本を読むのが好きで、国語や社会、特に英語が得意でした。好きなものは音楽で、家にあったクラシックのレコードをよく聴いていました。高校には、吹奏楽部が強かったという理由で進学しました。当時は、東京交響楽団の先生に師事していて、県のアンサンブルコンテストで金賞を取ったこともあります。卒業後、英語が得意だったという理由で英語科に進学しました。その後、女性が長く働ける

企業に就職しましたが、再び大学で学ぶことを志すようになりました。  
「**進学を決めたきっかけなどはありますか？**」  
企業に入社したときの同期を3人亡くしてしまっていて、その時に「ずっと働き続けるなら、人の暮らしや命にかかわる仕事がしたい」と思い、無謀にも医師になろうと大学受験を決心しました。結果的には、看護の道に進みましたが、亡くなった同期のお母様の悲しみを目の当たりにして、若い方が亡くなるってこんな辛いことなんだなと苦しくなった経験を振り返ると、社会に生きる人々の生活、生命、生き様、心と体の健康に深くかかわる保健学・看護学が研究フィールドになったのは必然だったのかなと思います。  
「**ご自身の研究テーマを決めたきっかけなどはありますか？**」  
アウシユビッツ（第二次世界大戦中にドイツが設置した強制収容所）を経験した人としていない人の更年期を比較すると、当然アウシユビッツに収容されていた人の健

度は低いですが、そういう過酷な環境にいながらもお、健康な状態を保っている人がいて、その人たちはどういう環境で生きてきて、どういう考え方をしているかという研究があります。その研究を知ったときに、「これだと思いました。戦争で人々が亡くなっていく中で、心が傷ついていくのは当たり前ですが、その中でどう健康を保っていくのだろうか」という視点で見えていくことは大切だと感じました。  
「**文系科目が得意だったそうですが、今の研究に力になっていないと思いませんか？**」  
看護は医療系に分類されますが、人と向き合う分野なので感情や人間関係などへの理解が求められていると感じています。もちろん、科学的な素養も必要ですが、文系的な素養も今の研究の力になっています。世の中のほとんどのものは計算式だけでは出ず、特に人を相手にしているものは正解がないです。そのため、ベースには理系の知識を持ちつつ、そのなかで人の営みをどう解釈してケアしていくかという両方の視点がないと難しいなと思います。

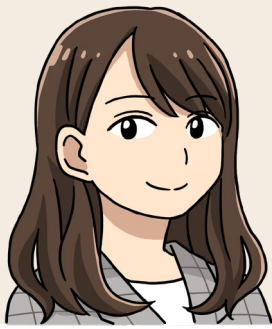


# 人の暮らしや命にかかわる仕事がしたい —— 失敗や遠回りの先にみえたこと

筑波大学医学医療系准教授、博士（保健学）  
大宮 朋子



2023年7月



「研究をされていて辛かったことなどはありますか？」  
私のアプローチ方法が良くなかったのですが、「あなたの研究のために私たちを使うのか」と言われたことです。大学院に進学して最初に行った研究は、先天的な障がいを持って産まれてきた方を対象にした研究でした。難しい状態で生きる中で、自分を持ってしっかりと「これで大丈夫」と生きている方がたくさんいました。そうした中で、「どうしてそうなれたんだろう」という問いを解き明かすところからスタートしました。研究者として未熟だった私は、電話で研究協力のご依頼をお伝えしてしまいました。しっかりと、会いに向いて思いを伝えなければならなかった、もともと人とかかわりを大切にすべきだったと反省しています。

「このことをきっかけに、研究って何だろうと問い直すことができました。研究者は、けっして自分の業績のためだけにやるのではなく、研究成果を世の中に還元していかないと意味がないと深く心に刻まれています。この経験から、研究結果は必ず研究にご協力いただいた方々に返すようにしています。」  
「この経験をもとに、工夫した点などはありますか？」  
対象者の方には誠意を尽くさないといけないと思えました。その後も、シビアな状況に置かれた方を対象とする研究を行ってききましたが、どういう風なことを明らかにしたくて、何を社会やみなさんに還元したくてやっているのか自分の中に落とし込んでおかないと伝えられないし、透けて見えてしまう。例えば、何か話された際に「分かります」といっても、「あなたが分かるの？」と返されたらぐうの音もでないですよ。そこを認識したうえで、それでもあなたの話を聞かせてくださいという姿勢で行かないと失礼だと思っています。

「進路に悩む若い世代のみならず、大谷翔平選手のように目標を掲げて努力していく方もいると思うのですが、私は真逆で自分が今研究者をしているとは思っていませんでした。ですので、自分が何になるのかを早くから決められないことを恥ずかしいと思うことは全くなくて、自分の好きなことと向きあうてほしいです。自分で決めたことは、「あそこまで悩んで決めただから……もういい！」と吹っ切れて考えられます。学生の時からそこまで思いつめる必要はありませんが、「心がうごくこと」「ズキーンとくること」をなんで？どうして？こう思うんだろう？と突きつめていくと、振り返った時には道ができていくかもしれない。

月並みですが、人と比べすぎず、回り道や失敗をむしろ喜ぶぐらいでいてほしいです。山ほど失敗をし、遠回りをしてきた私が確信を持って言えることです。今では、その失敗さえも「おいしい」経験だった、とさえ思えます。心から応援しています。

